

取材のお願い

第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館展示 キュレーター・青木淳による「中立点 (In-Between)」が開幕

国際交流基金（JF）は、2025年5月10日から11月23日にかけて、イタリア・ヴェネチアで開催される「第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」での日本館展示を主催いたします。キュレーターに青木 淳、キュatorial・アドバイザーに家村珠代、参加作家に藤倉麻子と大村高広（アーティストと建築家によるユニット）、砂木（木内俊克と砂山太一による建築ユニット）を迎え、「中立点」をテーマに展覧会を実施します。

記

■第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館展示 概要

タイトル：中立点（英題：In-Between）

会期： 2025年5月10日（土）～11月23日（日）

会場： ジャルディーニ地区内日本館

主催／コミッショナー： 国際交流基金

キュレーター： 青木 淳（建築家、AS Co. Ltd.代表）

キュatorial・アドバイザー： 家村珠代（インディペンデントキュレーター、多摩美術大学教授）

出展作家： 藤倉麻子＋大村高広

砂木（木内俊克＆砂山太一）

特別助成：公益財団法人石橋財団

協賛：大成建設株式会社、株式会社竹中工務店、鹿島建設株式会社、公益財団法人大林財団、
YKK AP 株式会社、三和ファサード・ラボ株式会社田中 仁、福武英明、石川康晴、神原勝成、森 佳子、青井 茂、木野瀬祐太、Rina Matsuda、
Miyuki Mizuno、酒井宏彰、高橋隆史、宅間理了、牧 寛之、石井孝之、小山登美夫、那須太郎、
菊竹 寛、額賀古太郎、平川紀道、鬼頭健吾、真鍋大度、蜷川実花、竹村 京

特別協力：カラー

協力：デルタ電子株式会社、株式会社日本 HP、京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab



1

©Asako Fujikura + Takahiro Ohmura

第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館
「In-Between」展示風景、Photo: houses inc.

写真提供：国際交流基金

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

本展は、「中立点（In-Between）」と題し、私たちが直面する2つの喫緊の問い、すなわち、気候危機のような実存的脅威の中で、私たちは世界とどのように関係を結ぶべきか、そして急速に進化するAIと、どのように関わっていくべきか、に応答しようとするものです。

会場では、砂木（砂山太一 & 木内俊克）と藤倉麻子+大村高広の2組のユニットが、それぞれの視点からこの問いと対峙します。展示は地上階ピロティと上階ギャラリーの2層で構成され、両者は上階の床を貫く正方形の「穴」によって一体化しています。この「穴」は、断片化された知の象徴であり、空間同士を結びつけ、展示全体の核となるものです。展開される音と映像のインスタレーションでは、日本館の7つの建築要素（「穴」、「柱」、「壁」、「煉瓦テラス」、「階段庇」、「動線リング」、「イチイの木」）が登場人物となり、5人の人間と想像上の対話を交わし、日本館の未来が創出されます。

■キュレーター・ステートメント

私たちはついつい、私たちを取り囲む環境を操作が可能な対象として捉えてしまいがちです。しかし、その認識こそが気候危機を引き起こしている元凶ではないでしょうか？

私たちは、気候危機を解決すべく、最大限の努力をもって、技術を進化させていく必要があります。しかし、それだけでは、気候危機を根本的なところでは解決することはできないでしょう。とはいえ、その一方で、技術を捨てて自然に回帰するというのも現実的な選択ではありません。

私たちに今必要なのは、私たちを取り囲む環境に対して、それを操作できるという認識とその逆にそれは操作できないという認識の、私たちは進む道の両側にあるどちらの陥穽にも転落しない第三の「知性」を持つことであると考えます。

操作は、操作する側と操作される側の、つまり主客の二分を前提としています。それゆえに、まず私たちは、主客分化をなくした地平に立ってみることから、思考実験を始めました。

日本には「間」という観念の歴史があります。「間」は、もともとは、日常的な意味での「あいだ」である以上に、2つの事物の応答（対話）が孕むテンションであり、そのテンションのふるまいがひとつの虚なる主体として機能するという観念でした。その観念からすれば、主体は、私たち人間かその外部世界のいずれかにあるのではなく、私たち人間でもその外部世界でもない、第三の次元にある世界-中立点-のなかにあるということになるでしょう。

中立点とは、人間も非人間も、自然も人工も区別なく、それらの応答（対話）の状況そのものであり、そこに身を投じるということなのです。

こうした知性を模索する試みとして、私たちは日本館の建物自体をとりあげることにしました。日本館を構成している事物 - Hole（穴）、Wall Columns（柱）、Outer Walls（壁）、Brick Terrace（煉瓦テラス）、Pensilina（階段庇）、Tilted Loop Path（動線リング）、Yew Tree（イチイの木） - が対話、つまり情報の交換をはじめ、そこに人間がそれらと同等の存在として加わって、日本館のあり方について「話し合う」ようになる、そんなAI技術が進んだ、少し先の未来の状況を描くことにしました。

青木 淳

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■ ヴェネチア・ビエンナーレ (Biennale di Venezia) について

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリア・ヴェネチア市の市内各所を会場とする国際的なフェスティバルです。1895年に最初の美術展が開かれて以来、130年以上の歴史を刻んでいます。近年、世界各地で美術を中心に、国際展が開催されていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」を意味するイタリア語で、同様な国際展の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」（3年に一度）と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。ヴェネチアには現在、美術、建築、音楽、映画、演劇、ダンスの各部門がありますが、建築展は、現代の建築の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際建築展として世界の注目を集めています。

■ コミッショナーについて

第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館展示の主催者／コミッショナーである「独立行政法人国際交流基金（JF）」は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月1日に独立行政法人となりました。海外に25か国・26か所の拠点を持ち、「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」をミッションに掲げ、世界の人々と日本人の間で相互の理解を深めるため、さまざまな企画や情報提供を通じて人と人との交流をつくりだしています。ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展、国際建築展における日本館展示を主催しています。

日本館公式ウェブサイト：<https://venezia-biennale-japan.jpif.go.jp/>

■ 第19回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 全体概要

会期：2025年5月10日（土）～11月23日（日）

会場：ジャルディーニ地区（Giardini）、アルセナーレ地区（Arsenale）、他ヴェネチア市内各所

総合ディレクター：Carlo Ratti

総合テーマ：Intelligens. Natural. Artificial. Collective.

公式ウェブサイト：<https://www.labiennale.org/en>

■ 広報用画像および動画

画像・動画を希望される方は、広報担当の熊倉、福島（press@jpf.go.jp）までご連絡ください。

【ご使用時の注意点とお願い】

- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、作家名、作品名、作品情報及び所定のクレジットを必ず記載してください。
- ・画像の改変（トリミング、部分使用、文字のせ含む）、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・事実関係確認のため、出版前に記事校正を広報担当者までお送りください。
- ・掲載誌又は、掲載記事を広報担当者までお送りください。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



2



3



4



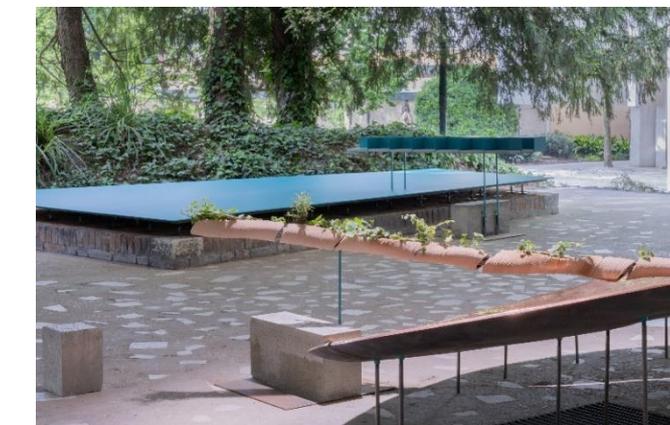
5



6



7



8



9

この件に関するお問い合わせ：
国際交流基金 ブランド推進部（広報担当：熊倉、福島）
Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044
E-mail: press@jpf.go.jp



10



11



12



13



14

1,5 : ©Asako Fujikura + Takahiro Ohmura 第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館「In-Between」展示風景

Photo: houses inc. 写真提供: 国際交流基金

2-4, 6 : ©Asako Fujikura + Takahiro Ohmura

7-12 : ©SUNAKI Inc.

13 : Photo: houses inc. (左から右へ) 家村珠代、藤倉麻子、青木淳、大村高広、砂山太一、木内俊克

14 : Photo : 前谷 開

この件に関するお問い合わせ :

国際交流基金 ブランド推進部 (広報担当: 熊倉、福島)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館展示 「中立点 (In-Between)」

主催/コミッショナー：国際交流基金

キュレーター：青木 淳（建築家、AS Co. Ltd.代表）

キュatorial・アドバイザー：家村珠代（インディペンデントキュレーター、多摩美術大学教授）

出展作家：藤倉麻子+大村高広

砂木 [木内俊克&砂山太一]

作曲・サウンドデザイン：ermhoi

音響・サウンドデザイン：大城 真

テクニカルエンジニア：イトウユウヤ

プロジェクトマネジメント：品川知子、町田祐子、岩瀬悠希子

展示アシスタント：荒木澄海、伊藤道史、加藤雄大、好田一生、松本 悠、斎藤悠太、角 太陽

グラフィックデザイン：若林亜希子

エディター：網野奈央

制作：alcarol [アンドレア・フォルティ&エレノア・ダル・ファラ]（鏡面大皿）

バルナ・ゲルゲイ・ペーター（土レール）

撮影制作：KAORU[Kaoru Mitsui]（フードスタイリスト）、荻ありす（フード助手）、青木理紗（撮影監督）、

小澤秀馬（撮影・カラスト）、鈴木晴海（撮影助手）、藤井貴浩（照明）、成毛紗恵子（照明助手）、

石田剛志（照明助手）、神崎えり（プロダクションマネジメント）、上地可紗（ヘアメイクスタイリスト）、

しんやさとこ（スタイリング）、稲永英俊（プロップ施工）

CG制作アシスタント：池田愛（レンダリングコーディネーター）、二郷みき（モーションデザイン）

構造エンジニア：木村友美

タイトルフォント：タリク・ハイブア

現地コーディネーター：武藤春美

出演：鬼久保紀恵、森田秀二、太田琢人、アリソン理恵、阿野恭子

声の出演：ケヴィン・マキュー、森田絵奈、森田秀二、ジュリア・ショートリード、ジュア、ヒミ、ermhoi

演奏：亀井友莉（1st Vn）、石井智大（2nd Vn）、三品芽生（Viola）、村岡苑子（Vc）、

マーティ・ホロベック（Double Bass）、タイキメン（Marimba）

制作アシスタント：水谷泰平、中原稜将、西頭慶恭、山口遼太郎、荒木颯太（土レール）

日本館関連展示として以下が開催されます：

鬼頭健吾「LINES」展、会期：2025年5月10日（土）～9月28日（日）

会場：ヴェネチア国立考古学博物館 中庭と展示室内 (P.za San Marco, 17/52, Venezia, Italy)

「蜷川実花展 with EiM: INTERSTICE」、会期：2025年5月10日（土）～7月21日（月・祝）

会場：Palazzo Bollani (Castello 3647, Venezia, Italy)

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp